

送配電等業務指針第33条第1項第2号アからエまでの要件適否の状況に係る詳細について(平成28年12月末現在)

ア. 地域間連系線の利用実績

空容量/運用容量が5%以下の時間数比率

連系線	2016/1~2016/12		判定
	順方向	逆方向	
北海道本州間連系設備	0%	64%	○
東北東京間連系線	1%	0%	
東京中部間連系設備	2%	53%	○
中部関西間連系線	0%	1%	
北陸関西間連系線	0%	0%	
関西中国間連系線	0%	0%	
中国四国間連系線	0%	4%	
中国九州間連系線	0%	7%	
中部北陸間連系設備	10%	10%	※
関西四国間連系設備	0%	1%	※
中部北陸間連系設備 北陸関西間連系線迂回	0%	0%	
関西四国間連系設備 中国四国間連系線迂回	0%	4%	

イ. 地域間連系線の年間計画

空容量/運用容量が5%以下の時間数比率(システム段階的運開により第10回数値を再掲)

連系線	2016/3~2017/3		判定
	順方向	逆方向	
北海道本州間連系設備	1%	80%	○
東北東京間連系線	34%	0%	○
東京中部間連系設備	0%	79%	○
中部関西間連系線	2%	3%	
北陸関西間連系線	0%	0%	
関西中国間連系線	0%	0%	
中国四国間連系線	0%	0%	
中国九州間連系線	0%	34%	○
中部北陸間連系設備	8%	8%	
関西四国間連系設備	0%	0%	
中部北陸間連系設備 北陸関西間連系線迂回	0%	0%	
関西四国間連系設備 中国四国間連系線迂回	0%	0%	

判定 ○ :運用容量に対する空容量が5%以下の時間数比率が、過去1年間で20%以上となった場合
※他の連系線への迂回が可能である潮流については、他の連系線に迂回したものと取り扱い総合的に判断する

ウ. 地域間連系線の長期計画

空容量/運用容量(「電力取引市場の環境整備のためのマージン」設定前)

連系線	時間帯	方向	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	判定
北海道本州間連系設備	ピーク	順方向	17%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	
		逆方向	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	○
東北東京間連系線	ピーク	順方向	15%	6%	6%	2%	2%	2%	2%	2%	○
		逆方向	577%	643%	641%	775%	767%	756%	755%	745%	
東京中部間連系設備	ピーク	順方向	63%	63%	63%	36%	33%	33%	33%	33%	
		逆方向	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	○
中部関西間連系線	ピーク	順方向	86%	90%	125%	125%	122%	122%	122%	122%	
		逆方向	79%	75%	48%	49%	51%	51%	51%	51%	
北陸関西間連系線	ピーク	順方向	98%	97%	97%	97%	97%	97%	97%	97%	
		逆方向	95%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	
関西中国間連系線	ピーク	順方向	150%	149%	150%	148%	148%	148%	148%	148%	
		逆方向	20%	20%	19%	20%	20%	20%	20%	20%	
中国四国間連系線	ピーク	順方向	22%	22%	22%	22%	22%	22%	22%	22%	
		逆方向	100%	100%	100%	101%	101%	101%	101%	101%	
中国九州間連系線	ピーク	順方向	610%	610%	614%	615%	615%	615%	615%	615%	
		逆方向	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	○
中部北陸間連系設備	ピーク	順方向	188%	192%	192%	192%	192%	192%	192%	192%	
		逆方向	12%	8%	8%	8%	8%	8%	8%	8%	8%
関西四国間連系設備	ピーク	順方向	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	
		逆方向	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
中部北陸間連系設備 北陸関西間連系線迂回	ピーク	順方向	62%	63%	63%	63%	63%	63%	63%	63%	
		逆方向	81%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	
関西四国間連系設備 中国四国間連系線迂回	ピーク	順方向	115%	115%	115%	115%	115%	115%	115%	115%	
		逆方向	49%	49%	49%	49%	49%	49%	49%	49%	

□:運用容量に対する空容量が10%以下の年

判定 ○ :運用容量に対する空容量が10%以下の年が3年以上となった場合
※他の連系線への迂回が可能である潮流については、他の連系線に迂回したものと取り扱い総合的に判断する

エ. 市場取引状況

市場分断処理の時間数比率(2016/1~2016/12)

連系線	北海道本州間連系線	東北東京間連系線	東京中部間連系線	中部関西間連系線	北陸関西間連系線	関西中国間連系線
方向	順方向	逆方向	順方向	逆方向	順方向	逆方向
分断比率	0.1%	62.2%	1.0%	0.0%	1.4%	67.9%
判定	○			○		

連系線	中国四国間連系線	中国九州間連系線	中部北陸間連系線	関西四国間連系線
方向	順方向	逆方向	順方向	逆方向
分断比率	0.0%	0.0%	0.0%	6.4%
判定			0.1%	0.4%

判定 ○ :過去1年間に市場分断処理を行った商品の数が、過去1年間の総商品数の20%以上